

今こそ、基本に返った飼養管理を

最終回 肥育舎の管理

千葉県・なのはなベテリナリーサービス 榎戸利恵

肥育舎の管理

肥育舎の作業は図1のようになります。

前回の離乳舎の記事と共通するところがありますが、肥育舎でも「出荷豚の選別」、「出荷」があります。また、離乳舎で神経を使って育てた後、肥育舎へ移動し、安心して手を抜きたちなステージでもあります。そのためか、肥育舎では掃除が行き届いていない農場も見られます。入れ替えの度に豚房を洗淨しない農場もあります。

実は、筆者は肥育舎の管理が一番難しいと思っています。

肥育舎で見られる問題点を表1に示しました。

(1) 豚房の水洗・消毒・乾燥

ここで問題になるのは、もちろん水洗や消毒不足です。ふんや有機物が残っている上から消毒をしても、疾病伝搬予防の高い効果は期待できません。水洗は徹底して、隅から隅

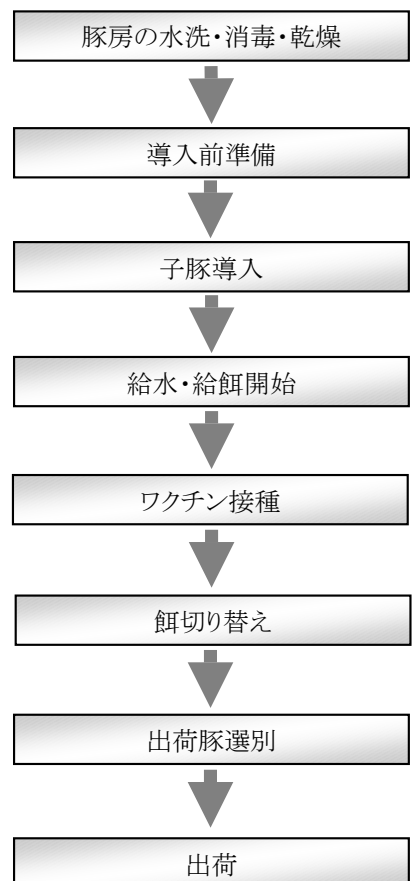


図1 肥育舎での作業の流れ

まで実施してください。消毒後の空舎期間中にネズミやゴキブリなどの衛生動物が病原菌を運ぶ可能性が高く、せっかく消毒したのに、効果半減という農場が多く見られます。

これを改善するには、根本的な衛生動物対策はもちろんのこと、空舎期間中のネズミ対策は、豚への影響を考えなくてよいので思い切った実施できるので、効果が高いと思います。

(2) 導入前準備

ピッカーから十分な水が出るか、給餌器や給餌口のチェックを実施します。餌は、導入前に床に撒いたり、給餌口の出方を調整し、導入直後の

日齢の豚が食べやすいようにします。

(3) 子豚の導入

離乳舎か

ら子豚を導入します。このとき、コンテナなどを使用して運ぶときには、きれいに洗淨し、最終使用日より二日間以上経過したものを使用します。また、導入通路も洗淨・消毒しましょう。

(4) ピッグフロー

異なる離乳舎から一つの豚舎に豚

表1 肥育舎で見られる問題点

- ピッグフロー
- 疾病（肺炎）
- 疾病（下痢）
- 環境不備
- 不清潔
- 密飼い
- 選別ミス

表2 発育目標の目安

日齢	1日採食量(kg)	1日増体重(kg)
70~100	1.35	0.60
100~130	1.90	0.80
130~160	2.60	0.95
150~180	2.50	0.90

表3 給水量の目安

ステージ	1日飲水量(ℓ/日)	ピッカー流水量(ℓ/分)
肥育舎(70~120日齢)	5~8	1



写真1 流水量の計測

が集まってきたり、肥育舎へ導入するときに、群を再編成することは、適正なビッグフローに反しますので、やめましょう。肥育舎で群を再編成しないように、なるべく離乳時くらいまでに済ませておきましょう。このように、後で混ぜるようなビッグフローを行っている農場の子豚事故は、改善されにくい傾向があります。

(5)給餌・給水開始

移動直後の餌には、移動ストレスから肺炎などの発症を予防するため、抗生物質を添加

することがあります。抗生物質の種類・添加方法については、管理獣医師の指示に従ってください。

①環境整備

給餌・給水量は、表2、3を参照してください。餌や水をしっかりと与えないと、豚は育たないということはいくらまでもないです。餌の切り替え時に事故が起こることが多いのですが、違う餌を命に変えるためには、相当のストレスがかかっているということだと思えます。

また、豚は、餌の約三倍の水を飲みます。水の出が悪いと、餌も食べなくなりす。よく、ピッカーが詰

まっけていて水の出が悪いのを見かけます。絶対的流水量が不足で肥育成績の悪い農場があります。肥育舎でのピッカー流水量は1ℓ/分が必要とを考えてください。写真1は、筆者が流水量を測っているものです。ストップウォッチや時計と軽量カップさえあればすぐに実行できます。一度、計測をお勧めします。

②疾病(肺炎)

肥育期では、APPやサーコウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、パスツレラ肺炎などが発症することがあります(写真2)。各種病気の対策は今回は割愛させていただきます

が、オールイン・オールアウトおよび豚舎の洗浄・消毒・乾燥、そして空舎期間は一日以上はとりたいたところ。また、一度病気が入ってまん延してしまつと、対策をしてもなかなか効果が出づらものです。農場内に病気を持ちこまないよう、バイオセキユリティーの徹底に努めましょう。

③疾病(下痢)

ロソニアは、肥育舎で散見することが多い疾病です。見た目は清潔な農場に多く発症するように思えます。タイロシン、リンコマイシンの注射や添加剤で対応します。添加剤を予防的に使うと、切れがよいと思えます。抗生物質の使用方法は管理獣医師の指示に従ってください(写真3)。

④豚舎内は清潔に

肥育舎は農場で一番掃除が行き届きません。逆にいえば、肥育舎がきれいな農場はよい管理をしているということ。除ふんをしなければ、ふんが乾燥して、豚舎内の空気とともに豚の口や鼻から体内に入ります。肺炎の発



写真2 サーコウイルス2型に感染した肥育豚

症率も高くなる傾向が見られます。また、出荷日齢も延長します。

⑤密飼い

筆者の見ている農場でも、密飼いは数年でだいぶ減ってきたと思います。密飼いをした方はよくお分かりかと思いますが、増体が減り、全体的に体型が細くなります。そして、必要以上に育つと、事故がぼつぼつと起こります。写真4は、豚舎の故障で、予定外の豚を入れざるを得なくなった豚舎です。ここまで密な豚舎は初めて見ましたので、写真を撮

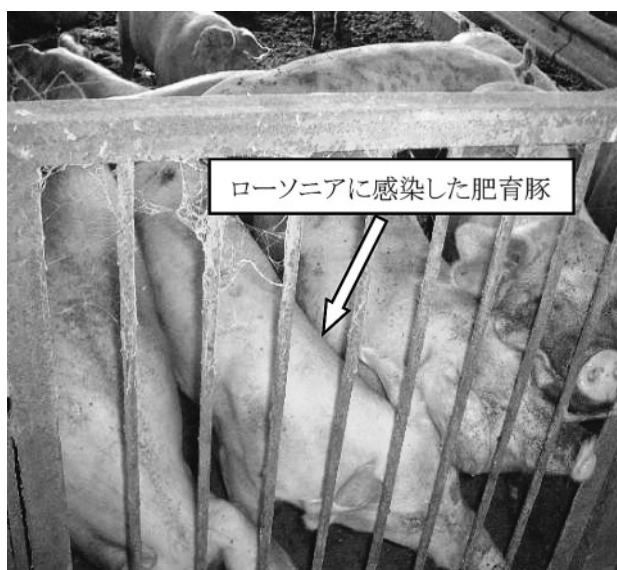


写真3 ローソニアに感染した肥育豚

らせていただきました。まさか、こんな飼いや方をされている方はいませんよね？

表4は適正飼養密度です。皆さんの農場はクリアしていますか？

⑥ワクチン接種

この時期のワクチン接種として、オーエスキュー病、APP、丹毒などがあります。離乳豚と違い、運動能力もあり、よく逃げます。このときに、針を折るケースが多いですので、注意しましょう。豚房の端まで豚を追いつめ、豚の後から耳根部に注射

しましょう。丹毒の注射の後、善感反応

といて、注射部位の回りが腫れます。その位置が適切かどうか、きちんと注射が打たれているかを確認できます。

⑦出荷豚選別

肥育舎でメインの仕事です。ここで、農場の稼ぎが決まるわけです。効率よく稼ぎましょう。そのためのポイントをいくつか挙げておきます。



写真4 密飼い。…まさにぎゅうぎゅう。

●出荷可能な豚かどうかを選別します。日齢や投薬履歴を確認します。よくあるのが、同じくらいの日齢の肉豚が違う豚舎にいて、片方を出荷し忘れ、重量オーバーになるケースです。注意しましょう。

●万が一針が残留している豚を出荷するときは、出荷先に情報を間違

表4 適正飼養密度

体重(kg)	1頭当たり必要床面積(m ²)
30	0.30
50	0.40
70	0.50
100	0.65

やすくなり
ます。その
ため、小さ
な豚を出荷
しがちです。
体重が揃う
ことで、枝
肉になった
ときも大き
さが揃い、

なく伝えなければなりません。その
ためにも、日頃から注射針の使用記
録は必要ですし、万が一のクレーム
対応に役立ちます。
●治療については、肥育舎で治療す
るケースはほとんどないと思いま
すが、A P Pの治療として、出荷直前
まで飲水投与することがあります。
その場合は、休薬期間を厳守しまし
よう。
●体重測定をしましょう。現在実施
していない農場でも、これだけは絶
対にお勧めします。見た目大きく見
えても、実は体重が足りなかったと
いうケースが多く、農場であります。
特に夏場の出荷では、全体の育ちが
暑さの影響で止まるため、眼が狂い

売り先の評判も良くなります。安定
収入、良い農場評価を得るための大
切な仕事です。

⑧出荷

体重測定した後、出荷になります。
出荷業者を頼んでいる農場でも、自
農場で出荷する農場でも、農場バイ
オセキリテーターには細心の注意が
必要で、互いのコミュニケーション
をしっかりとっておくことは大切で
す。出荷担当者が前日に行った場所、
トラックの消毒方法、運転手の長靴
の管理などの情報は把握しておきま
しょう。出荷トラックは、食肉加工
場から他の農場の病気を運んでくる
可能性が高いものです。こういった
情報を共有することにより、お互い
の意識の向上に役立ちます。

肥育舎の仕事は農場で
一番見えやすい

肥育舎の仕事は農場の中で一番見
えやすいものです。現場担当者次第
で出荷成績は変わってきます。昔の
養豚場は木造で、放っておいても育
つものでした。しかし現在、多くの

病気と共存する中、衛生レベルが向
上されてきました。特に清掃に関し
ては、しっかり行われていない農場
は、実際の他の仕事も「ま、いや」
と手を抜く傾向にあります。そのよ
うな農場へいくと、ありとあらゆる
ものが「ま、いや」モードで放置
されています。問題は、それで平気か
という考え方です。家の水回りを見
て、その家庭が分かるといいます。
養豚場のトイレ掃除、きちんとされ
ている農場は日本全体の何割でしょ
う(もちろんきれいな農場も多数知
っておりません)。そして、他の業種で、
トイレが掃除されていない事務所は
あまりないと思います。

大切な外部の人の
イメージ

確かに、養豚は動物を飼うのです
から、ふんも出るし、尿も出ます。
その処理に困っている方は、家畜排
せつ物法がスタートして数年経った
今も、実際はまだたくさんいるでし
ょう。外部の人に農場の中は、どう
イメージされているのでしょうか。

きれいな農場？ 汚い農場？ どん
な人たちが働いているんだろう？

逆に、外からの養豚場のイメージ
から、ふん尿処理に関して苦情をい
う人がいるのかもしれない。しか
し、農場内にとんだん慣れて
くるので、場外との感じ方のギャッ
プが生じてくると思います。それと
も、やるだけ無駄と思うのでしょ
うか。皆さんが一つ一つ行動を起し
ていくことで、少しでも、外部への
イメージがよくなると思います。
そのために外部とのコミュニケーション
をとって意見を聞くことも一つ
の方法ですね。

パラダイムに入って
豚を飼っていませんか？

違う分野からのお話になりますが、
自分の中の価値観の枠を「パラダイ
ム」といいます。このパラダイムの
中に入って行動している人間には、
パラダイムは見えません。逆に、外
の人から見るとよく見えます。筆者
は、養豚場の仕事はある程度決まっ
ているものの、自分の価値観で仕事

でしょうか（表5）。

おわりに

三回にわたり、記事を書かせていただきました。読者の皆さん、多くの疾病が流行するようになった今の養豚で、その飼養環境は豚にとって快適でなくては良い肉豚を出荷できません。そして、その飼養環境をつくるのは、他でもない皆さん自身なのです。基本的な管理について簡単に書いてきました。逆に、簡単でよいと思います。ここに、それぞれの必要な応用対策が加わっていけば、なお成績は上がるはずですが、不必要な情報に踊らされるのではなく、ベースをしっかり持って、強い養豚家であっていただきたい、と心から願っています。

拙い文章におつきあいください、読者の皆さまには心から感謝申し上げます。

おわり



表5 パラダイムの例

- どうせやっても無駄。
- 社長が評価してくれない。
- 一度やると毎回やらなくてはならないのが面倒。
- いつもうまくいかない。
- 養豚は一般の人に理解されない。など…。

を決めていかなければならぬケースが多いと思います。そうすると、パラダイムの多い担当者、調子の良いときはよいのですが、調子が悪いときは農場の成績がぐんと落ちることになります。パラダイムの中に入った状態で仕事をすると、一〇〇%の仕事を目指すとすると、七〇%程度の仕事しかできないといえます。飼料価格が高値になり、いつ何時疾病の被害が起こるかどうかわからない今、この三〇%のロスを見逃している余裕はありません。常に、一〇〇%、一三〇%の仕事をしていかなければならない時代だと思います。それには、各自の持つパラダイムを抜ける必要があります。今、農場ですべきこと、もう一度考えてみてはいかが